



[| アーカイブ |](#)

PICKUP : 県産品の輸出促進期待 チャーター便運行開始 釜石港活用国際物流ルート (江刺・白金運輸)

投稿者 : tanko 投稿日時 : 2022-07-20 09:39:04 (53 ヒット)



県内食品関係等企業の輸出促進へ、新たな一歩を踏み出した。釜石港を活用した国際物流ルート構築を目指し県南広域振興局（永井榮一局長）が3カ年取り組んだ輸送実証実験を経て、チャーター便の運行が本年度から始まった。その初回となる輸送商品の積み込み作業が19日、江刺中核工業団地にある白金運輸（株）（本社・江刺稲瀬、海鋒哉代表取締役社長）の混載貨物専用倉庫（CFS）で行われ、同港へ運搬。24日に出港し、中国に輸出するスケジュールだ。

実証実験は同社に事業委託し、19（令和元）年度から昨年度まで実施。参加企業を募り、輸送費用の一部を県が負担した。常温混載（ドライコンテナ使用）や、冷凍冷蔵コンテナ（1社1コンテナ、リーファーコンテナ使用）による海外への輸送テストを計11回継続。費用面では、企業が通常利用する県外港からの輸出と比べ、国内陸送費の削減効果などから全体費用が約2〜3割圧縮できることを確認した。

実証実験参加企業などへの意向調査から、ビジネス運行としての需要の見込みがあると判断。本年度から、輸出依頼の都度対応するチャーター便運行を同社が事業化した。

第1回のチャーター便は常温混載による輸出で、矢巾町の岩手県産（株）（佐藤学代表取締役）、盛岡市の（株）ヘアレン醸造所（鳥田洋一代表取締役）が参加。胡麻ドレッシングやしょうゆ、そば、南部鉄器、ヘアレンビールなどを中国へ輸出する。

白金運輸のCFS（輸出入手続きやコンテナ詰めをする施設）で19日、コンテナ一つに商品計約16トンが積み込まれた。24日に釜石港を出港後、コンテナは8月1日に韓国・釜山港にいったん到着。目的地別のコンテナに商品を詰め替え、大連港（同18日着）や上海港（同10日着）に運ばれる予定となる。

同社の吉田裕一・営業管理部次長兼国際物流課課長は「岩手から世界に向け、小口でも商品を輸出できることを知っていただきたい。利用してくださる企業が増えることで、将来的には週1回の定期便化を目指していきたい」と力を込める。

常温混載の場合は輸送時期が合致する複数企業のマッチングが課題に挙げられ、輸出に取り組む企業を広く募っている。本年度、県南を中心に輸出意欲の高い企業などで構成する輸出促進・地域商社設立研究会（事務局・県南広域振興局）が立ち上がり、現在の会員は21社。県南局経営企画部産業振興室観光商業・食産業課の荒浜清一課長は「輸送費用圧縮のメリットを知っていただき、釜石港を活用した国際物流ルートを活用される企業が増えていくことを期待している」とし、「県産品を岩手の港から」という意識醸成を図りながらPRに努める。

写真 = 19日に江刺で行われた輸送商品積み込み作業

新聞購読お申込み

新聞広告掲載料金とサイズ

新聞掲載写真の販売

困った時の
問い合わせ先 **業務に関する？**

随想・寄稿・文芸など作品を募集しています
Contribution

胆江日日新聞
サイエンスニュース
International Linear Collider

水沢信用金庫
mizusawa shinkin bank

奥州市観光
ウェブサイト

岩手銘醸
ショッピングサイト

胆江新聞について

[会社概要](#)

[取り扱い販売店](#)

[新聞が出来るまで](#)

[書籍紹介](#)

[リンク](#)

胆江地方について
Oshu&Kanegasaki

フォトギャラリー
photogallery